



庭には二羽。俄かに春の訪れ

(写真 小川写友会)

- ・令和8年二十歳を祝う会
- ・音楽とワインを楽しむ夕べ Vol.14
- ・公民館令和7年度事業紹介（下半期）
- ・小川に生きる
- ・図書室だより
- ・サークル紹介（コーラスにじいろ）
- ・小川村文化協会作品展
- ・公民館報お料理レシピ
- ・ステージ発表会
- ・絵手紙教室作品
- ・短歌会作品



夢に向かって 大きく羽ばたけ！

二十歳を祝う会

令和8年1月3日、小川村公民館で令和8年二十歳を祝う会が行われました。今年度は平成17年度生まれの19名が対象者で、小川小学校・小川中学校卒業生15名が出席され、人生の門出となる二十歳を祝いました。

会場は、短歌会の皆さんや絵手紙教室の皆さんによる祝福激励の短歌や絵手紙が掲出され、お祝いムード。

学校や就職等で離ればなれになっていた皆さんが久々に公民館に集い、恩師や仲間との再会に、卒業時から変わった姿や変わらぬ姿に歓声を

あげ、思い出話を花を咲かせました。今の自分の思いをパネルに書き、式典会場で記念撮影を終えた後、厳粛な雰囲気漂う式典が執り行われました。

式典終了後には、太鼓衆「岳響」の皆さんが駆けつけ、迫力ある和太鼓の演奏で門出を祝ってくだ

さいました。

その後、保護者が準備された、子どもの頃の映像の上映や、当時の担任の先生からの激励の言葉を受けたり、みんなで輪になって近況を語り合ったりしました。久々の出会いは、素晴らしい思い出となったことでしょう。

二十歳のスピーチを抜粋で紹介します。



★代表者挨拶 河邊 晴樹さん

今日まで私達を見守り育ててくださった家族や先生方、地域の皆さんに深く感謝申し上げます。これまでの歩みの中では、自然災害や感染症流行などの、困難な出来事もありましたが、その経験を通して、人との支え合いの大切さや、故郷・小川村の存在のありがたさを実感しました。私たちは未熟ではあります。二十歳としての自覚を持ち、小川村で育った誇りと感謝の気持ちを胸に責任ある行動を心がけ、力強く歩んでまいります。





★記念論文 清水 愛名さん

現在東京の大学に進学し、ダンスサークルの活動もしています。ダンスは全くの未経験で、当初は不安も大きく、周りとの差に悩んだり、自分の未熟さに落ち込んだりすることもありました。何度も壁にぶつかりましたが、それでも挑戦を続ける中で多くの友人と出会い、共に悩み助け合い笑い合いながら、かけがえのない経験と学びを得ることができました。

小川村から離れて暮らすようになって初めて、両親の思いやりや支えがどれほど大きなものだったのかを実感するようになりました。



自分の選択した道に責任を持ち、簡単にあきらめたり投げ出したりせず、自分で考え挑戦し続ける人間でありたいと思っています。

★記念論文

松本 奈々さん

私は小川村で生まれ育ち、現在も実家で暮らしています。子どもの頃は、



村で暮らしていることに抵抗を感じ市内の学校や多くの人が集まる環境にあこがれたこともありました。しかし現在では、小川村で育ったからこそ感じることでできる人の温かさやつながりを誇りに思うようになりました。就職し働き始めてから、生活リズムやものの考え方が大きく変わりました。目標に向かって仕事を進めていくためには、自分の意見に固執するのでも、相手の意見をそのまま受け入れるのでもなく、物事の本質を見極めながら意見を交わすことが大切だと学びました。

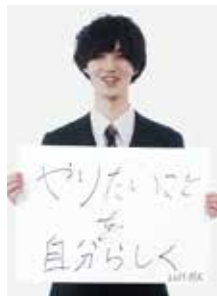
様々な人の意見や事実を耳を傾け、柔軟にものを考えられる大人になりたいです。

今後は支えられる側から少しずつ支える側へと成長し社会人として、一人の大人として責任ある行動をとれるよう努力していきます。





二十歳
今想う



ダイジェストムービーをご覧ください。
QRコードからお楽しみください。



音楽とワインを 楽しむ夕べ2026



2月7日(土)、音楽とワインを楽しむ夕べ2026「おがわむらのミュージシャン編」が開催されました。

小川村の視聴覚委員会が企画するこのイベント、今年で14回目の開催です。

村内はもちろん、村外からの参加者もあり、約45人もの人々が集いワインと音楽を楽しみました。アルコールから、ノンアルコールのワイン、ソフトドリンクまで20種類以上の飲み物が用意されました。

松本公民館長の乾杯で始まり、「もう一度聴きたいあの人のカラオケ」ということで、3人のカラオケ名人が会場を温めてくれました。



マイクロジャクソンとハイタッチ

その後はアコースティックギターの弾き語りやアコギ会による演奏、そして小川村にマイケルジャクソン?!に知る人ぞ知る、マイケルジャクソンのモノマネをする「マイクロジャクソン」のパフォーマンスで会場は更に盛り上がりました。私は誰でしょうゲームでは、チームの中で知恵を出し



大勢の参加者で盛り上がりました。

り、会場にいる人々がワインと音楽を楽しみ、そして笑い合い、語り合い、笑顔が溢れる時間を過ごしました。

「今まで話したことのない人ともたくさん話せて良い機会だった」、「来年も家族を誘って参加します」、「またね、おやすみ」と皆さん笑顔で会場を後にしました。

「この楽しいひとときを新しい人たちと分かち合うために、ぜひ周りの方にもお声がけしていただき、また来年もお会いしましょう。そして年々テーブルの数が増えていくと素敵ですね。」そんな司会者の言葉が印象に残りました。次回もみなさんぜひご参加ください。



おやキング杯優勝のニア先生

令和7年度公民館事業紹介（下半期）



令和7年10月26日～10月28日

「通学合宿」

令和7年10月26日(日)～10月28日(火)
2泊3日で通学合宿を実施しました。
4年生から6年生まで10名の小学生が小川村公民館を拠点に家族を離れ、自ら考え、仲間と協力し合い、学年を超え衣食住を共にし、地域の大人たちと触れ合いながら、自立の力を育みました。

～令和7年度おがわ熟年大学～

本年度熟年大学は33名の受講生が入学し、3月6日の最終講義まで、課外授業や一般公開講座を含め、合計10講義を行いました。

11月19日 熟年大学屋外研修

受講生22名が参加し、長野市豊野防災交流センターを視察しました。令和元年度の東日本台風災害により大きく被災した地区の復旧・復興や、センターの活用方法などの講義を荻原所長から受けました。



11月30日

「電磁波で体調が悪くなる？」

電気は、技術の進歩と共に様々な目的に利用され、産業や生活の向上に大きな役割を果たしていますが、これに伴い電磁界（電磁波）が、人々の健康に影響を与えるのではないかとの内容の講義を、WHOの見解から学びました。



12月7日 人権講演会 社会問題とその解決を考える「ストリートチルドレン」



我々が何気なく日常を過ごしていると気づかない、又は、目に入らない世界的に問題となっているラテンアメリカの都市化の過程から生み出された「ストリートチルドレン」。我々がいかに幸せなのか、自分だけよければ良いのか。人権とは何かを考えながら講義を受けました。

(清泉大学出張講座)

12月14日 「戦後80年平和の集い座談会」

戦後から80年。戦時中の小川村の様子や戦時中の教育について、実際に当時を知る94歳～102歳の村内在住の先輩3名から当時の想い、思い出を語っていただきました。

当時の写真をスクリーンに映しながら、戦時下で統制された情報や、教育など、生の声でお伺いし改めて「平和とはなにか」を学びました。



1月17日 新春お笑い講座「笑門来福の春」

恒例となりました、新春お笑い講座。今回は昨年引き続き長野らくらく倶楽部から、3名の演者さんを迎えて落語を3席聞き、大いに楽しませて頂きました。

笑うことは脳の働きを活性化させ、認知症予防にもなり、免疫力アップ、感染症予防、幸福感と鎮痛作用など、良いことだらけです。笑える人は健康で長生きができること確実です。無理してでも笑ってください。とのことです。

2月5日 「音」「音楽」を楽しもう！

世界各地の様々な楽器を体験したり、皆でジャンベを叩きながら唱歌や県歌を合唱したりと、受講生たちはリズムを楽しみながら、頭や体を使って音、音楽を堪能することができました。

(信州大学出前講座)



ここに掲載した以外にも、たくさんの講座を行いました。次回も内容や方法を変えながら催します。皆様公民館につどってください！



小松はま江さん

(夏和)



「いらつしゃいませ〜」道の駅おがわ「味菜」に響き渡る明るい声と満面の笑みでお客さまを迎えるのは、店長の小松はま江さん。

ベビーブームの昭和24年に久木中村に生まれました。当時は村内にも大勢の子供たちの声が響き渡り、久木にも小

学校の分校がありはま江さんも小学校3年生まで分校で学び、4年生から高府にあった本校に通ったそうです。その後、小川中学校を卒業し、中条高校に進学。都会の生活に憧れていたはま江さんは、高校卒業後は東京で就職することを決心し、NECに就職。念願だった都会での生活が始まりました。しかし、いざ仕事が始まると、そこでの仕事が自分の性格にあっていないと感じ、入社して1年で退職。「都会に行きたいという一心で就職先のことをよく調べず決めてしまったからね。情報を得る

方法も今のようによくはなかったから。」と当時を振り返るはま江さん。その後、都内で親戚が営んでいた電気工事店で2年ほど働きました。そして、22才の時に秋田県出身で都内の工務店に勤めていた旦那様と結婚し、ほどなくして旦那様が自ら工務店を立ち上げ、はま江さんもお店を手伝うことになりました。店舗の建築から内装まで請け負ったお店は徐々に規模が大きくなり、職人さんも雇い、越谷に工場、小川村にも木工場を持つまでになりました。

そしてバブルの時代になり、仕事の依頼がますます増え、関東はもとより東北地方や北陸からも仕事の依頼が舞い込むようになり、はま江さんも現場に向いたそうです。「とにかくあの頃は忙しくて精力的に動き回りましました。おかげで地方が変わる様子もこの目でみることできて、面白かった。」とのこと。

しかし、平成5年旦那様が他界し状況は一変。大黒柱を失ったお店は規模を縮小せざるを得なくなります。新たに社長となったはま江さんは、規模は縮小したものの会社経営を続けました。会社を継いで6年が経った時はま江さんは、二人の子ども達も独立し会社を継ぐ意思もなかったということもあり、会社を閉じ、小川に戻る決心をし、平成12年に小川村に戻ってきました。

村に戻ってきたはま江さんは、小川村に残っていたお店の木工場で、熱帯魚や爬虫類のエサとなる虫(ワーム)

を育て出荷する仕事を始めました。そして村での生活も軌道に乗り始めてきた平成14年、当時、第三セクターで営業していた「ふるさと伝統館」（現、味菜）が8月に閉店し、店をやってみないかと声をかけられたそうです。元々、接客の仕事をやってみたいと思っていたのはま江さん。それまで飲食の仕事をやった経験はありませんでしたが、その誘いを受けることにしました。

村の補助と自費で、まず、東京にいた頃にお世話になった仕事関係の方々にも手伝ってもらい店舗の内装をリフォームし、元々あったそば、おやきに加え新たなメニューも考え、従業員、調理師も募集。「ふるさと伝統館」閉店から3か月後の11月に「味菜」としてリニューアルオープンしました。



味菜オープン当時のスタッフで

「味菜」の店長として新たなスタートを切り、店を切り盛りしていく中で一度閉店した店を再生するといふ難しさを痛感したエピソードがあったそうです。それは、当時、Uターンで村に戻ってきたのはま江さんのことを知らない住民も多く、ある時、お店

にやってきた住民が「どこの馬の骨だか。わからない者が店をやっていつまで続くやら。」と辛辣な言葉を浴びせられたことが。しかし、はま江さんが久木の生まれとわかるとその人は、「そうか。がんばれよ」と手のひらを返したように激励の言葉をかけてくれたそうです。「当時は、村内では村外からの人が何かやるということが大変だった時代。Uターンの私でもそんなことがあった時代だったんです。」とはま江さん。

また、お店の知名度をあげるためワンコインランチ（日替わりランチ）を始めるなど持ち前の行動力とバイタリティーでお店のために色々と試行錯誤しながらやってきました。そして、同級生や友人、知人、家族、地元の方々など沢山の人情と優しさに支えられながら「味菜」店長として、23年が経ちました。

「村の方々の人情には大変感謝しています。村の皆さんがいたからこそ長く続けることができました。また、足を運んでくれる村内外の方にも本当に感謝しています。後どれくらいできるかわからないけれど、できるところまで続けていきたいです。そして良いお店の状態で次の人にバトンタッチできたらと思っています」「もうひとがんばりできるかな」とエネルギーッシュにお話してくださったのはま江さん。

小川の玄関口、「道の駅」の顔としてこれからも多くの方を笑顔にしていただきたいと思えます。



第120号
図書委員会

図書委員企画

「夢の図書室をつくらう」 工作ワークショップ開催

1月24日、図書室や本に親しんでもらおうと、小川村公民館にてワークショップを開催しました。子どもから大人まで18名が参加。集まってくれた皆さんのエネルギーで図書室の空間が生き生きと輝いているように感じた一日でした。ご参加ありがとうございました。



(つくった秘密基地に)「泊まりたいくらい楽しかった！」
(参加した子の感想より)



どんなスカートがいい?



図書室で宝探し!



みんなでどンドン作っちゃいます



小さな手から、作る
楽しさがあふれる



新聞紙で飾りつけ。
なんだか
いつもと違うゾ

図書委員も
大はしゃぎ



子どもたちの

好き・わくわくのパワーで

一日だけの夢の空間が出現



ワークショップでは、段ボールや折り紙などを使って、いつもとは違う「夢」の図書室を一日だけ作りました。子どもたちは自然と手を動かし、それぞれの発想で形を生み出していきました。
できあがった図書空間では、寝転んで本を読んだり、読み聞かせに耳を傾けたり、思い思いの距離感で本と関わる姿がありました。空間の装飾だけでなく、一人ひとりの本の楽しみ方そのものが動き出すことで、図書室が人の気配と活動に満ちた、動的な場へと変化していくのを感じました。
この取り組みの背景には、昨年11月に行った「本と図書室について話す会」があります。図書室を本を借りる場所にとどめず、居場所や活動の場として育てていきたいという思いを共有したことが、今回のイベントへとつながりました。

ブックスタート

～生後6ヶ月の赤ちゃんへ本のプレゼント～
 令和6年11月から
 令和7年6月生まれの赤ちゃん

『子どもに読んで聞かせたい本は？』



かわいいおうち製作中



秘密基地、出来上がったかな～？

「ねなごだれだ
 せなげごい」



伊部 穂映くん



ドレスで読みたい本探し



折り紙とお絵描きで動物園ができた！

「きゅっきゅっきゅっ」
 林明子



太田 伊仁亜くん



完成した“夢の”空間で読み聞かせ

「ねなごだれだ
 せなげごい」



人見 蘭ちゃん

「本と図書室について話す会」にて こんな声がありました

図書室の好きなところ、良いところ

- ・本のリクエストができる
- ・土日祝日開いていて嬉しい
- ・穴場感
- ・レトロ感がいい
- ・静か
- ・ゆっくり過ごせる
- ・実は小説、漫画が揃っている

チャレンジ、アイデアこうなったらいいな

- ・明るく入りやすい場所になるといいな
- ・古い本を新しく（同じテーマでも現代版に）
- ・本を読む以外の活動もできたら良いのかな

他にもたくさんのお意見をいただきました。
 ありがとうございました。

サークル紹介

「コーラスにいろいろ」

代表 村山 展子さん
(梶尾)

こんにちは。「コーラスにいろいろ」です。今年度から活動をはじめ、文化協会員として公民館を利用してサークル活動をしています。



歌が楽しくて!!

きっかけは、サンリングのボランティア。クリスマスに歌のプレゼントができたらしいね、と集まった仲間が歌い始めました。月一回、それぞれ歌いたい曲を持ち寄って一緒に歌っています。童謡、唱歌、昔流行った歌などみな知ってる曲もあれば、誰かのお

すすめで初めて知る曲もあります。知らなかった曲でも歌ってみたらとても良くて「良い曲だね」「楽しいね」と、新たな発見があるのも面白いです。とりわけ、素敵なのは伴奏です。ピアノを弾いてくださる堀内さんは池田町の方。大町で歌声喫茶を開くこともあるそうです。私たちは歌いながらも、聞こえて来るピアノの音色について、うっとりとしてしまいます。

集まる日は、大体毎月の後半の水曜日。まず、ラジオ体操で始まりです。録音じゃないですよ、ピアノの生伴奏です！みなさん子供の頃やっていますから、体が憶えているのですね。「いっちにっ」とか言いながら、普段固まりがちな体を伸ばしていきます。良い運動になります。体が温まったところ



気が向いた時にいつでもどうぞ。

で、発声をやったり、季節の歌を歌ったりして声を出していきます。このごろまで「冬の星座」「たき火」など冬の曲が多かったけれど、そろそろ春が近づいてきたので「早春賦」とか「花」なんかもいいですね。

休憩をはさんで後半はリクエストタイムです。「北上夜曲」「あずさ2号」「千の風になつて」…など、歌いたい曲の手が挙がります。リクエストにどんな曲があってもたいい堀内さんが応えて伴奏してくださるので本当に感謝しています。その時楽譜がなくても「じゃ、次回やりましょう」と準備してもらえるので、それもまた楽しみです。

「コーラスにじいろ」は、どなたでも参加できます。気が向いた時にふらっと来てくださってもOK。よかったですら、どうぞ気軽にいらしてください。



「ステージ発表会」会場の人々と一緒に歌いました♪



伴奏の堀内さん♪



小川村文化協会 作品展・ステージ発表会

2月28日～3月1日恒例の文化協会作品展・ステージ発表会が開催されました。

作品展では、日ごろ制作している作品や写真など、7つの団体から展示をいただきました。細かく、精巧に作られた作品や書・短歌など素晴らしい作品が2日間に渡って数多く展示され、ステージ発表終了後の抽選会にも景品として数多くの出品で当選者に大好評！

結成から23年を迎えた太鼓衆「岳響」の皆さんの迫力のある太鼓演奏から始まったステージ発表会は、キッズダンスサークル「アミューズ」の軽快なヒップホップダンス、小川音頭愛好保存会の参加者を巻き込んだ踊りやアンコールも起こった「アコギ会」

の演奏。「吟道会」・「歓竹会」による詩吟・尺八演奏、最後は「篠ノ井閑祥会」の皆さんの荘重な謡曲の謡で幕を閉じました。

作品展

本年度もゲストとして参加された「小川中学校吹奏楽部」による木管三重奏や管打六重奏・テノール独唱など観客を虜にし、感動を与えてくれました。



また、本年度公民館教室として行った「ウクレレ」教室の皆さんが教室の集大成として緊張の初ステージ。ハプニングもありつつも素敵な歌声・演奏を披露頂きました。昼食休憩中には視聴覚委員会の皆さんが過去に撮影した平成初期の文化芸能祭（後のステージ発表会）の上映もあり、若かりし頃の皆さんや解散してしまっただけのサークルの映像は、追憶のひと時。心が満たされた一日となりました。





春を感じる☆からだにやさしい旬レシピ



春キャベツの ふんわり花シュウマイ

材料（約15個分）

・春キャベツ	3～4枚
・豚ひき肉	200g
・玉ねぎ(中)	1/2個
・片栗粉	大さじ2
・おろし生姜	小さじ1
・醤油	大さじ1
・砂糖	小さじ1
・酒	小さじ1
・ごま油	小さじ1



作り方

- ① キャベツは芯を除き、細切りにする。玉ねぎはみじん切りにし、片栗粉をまぶす。
- ② ひき肉に調味料と玉ねぎを加えて混ぜ、食べやすい大きさに丸める。
- ③ 肉だねのまわりにキャベツを包むように付け、蒸し器で約10分蒸して完成！

※ 蒸し器がない場合→フライパンにクッキングシートを敷き、水100CCを入れフタをし、約10分蒸しても作れます。

ポイント

- ・旬の春キャベツはやわらかく甘みがあり、ビタミンCや食物繊維が豊富。
- ・ビタミンCは熱に弱いので、生や蒸すなど短時間の調理がおすすめ。
- ・お好みでからし醤油をつけて食べてください。下味にオイスターソース 小さじ2をプラスすると、そのままでもおいしいお弁当おかずにも！

春野菜は “ほろ苦さ”も魅力

春は寒暖差が大きく、体調を崩しやすい季節。菜の花やふきのとうなどの苦みは、冬の間にたまった体の疲れを整える助けになるといわれています。

お手軽レシピ

菜の花のオイル炒め

さっと茹でた菜の花を、オリーブオイルで軽く炒め、塩で和えるだけ。

んにくやベーコン、卵を加えても相性◎



絵手紙教室



絵手紙教室 三水 幸子

短歌会

どんと焼きこの灯火にも合併の

影があるのか道祖神に問う

塚田 綾子

連日の大雪予報に雪降らず

わが庭の梅頭に雪帽

大日方弘子

元旦に息子にせかされ初仕事

幹線道路の支障竹さる

金木 初義

遠き日に家族みんなで眺めたる

あの花吹雪惜みて思う

西條 定子

雪もなく七草がゆのせりを摘む

小さな一株に春のかおりが

大日方泰子

戦争のニュース直視はできぬまま

新聞歌壇に目を通すのみ

伊藤 宗善

選者詠 (小川村短歌会講師)

東京に積雪一センチのニュース聞く

吾は大余の雪と闘う

小野沢竹次